

日中異文化間コミュニケーションのためのカリキュラム・教材開発 －異文化間誤解・摩擦事例を活用して－

周勝男(兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科)

キーワード:

日中異文化理解 異文化間誤解・摩擦事例 異文化的事象 カリキュラム・教材開発

1. 研究背景と目的

グローバル化の進展に伴い、国境を越えた人の移動が頻繁に行われている。日本は現在、外国人労働者の受入拡大や国際結婚の増加などにより、事実上の多文化社会となっている。21世紀を生きる若者にとって、文化的背景が異なる人々との交流はもはや日常の出来事であるため、異文化間の相互理解と共生が切実な課題となっている。

日中における国家間の歴史的葛藤に着目した実践研究が多く行われてきたが、日中両国民間の交流や接触によって生じた問題に着目した実践研究は管見する限りまだ十分とは言えない。しかし、日中両国民の交流が活性化している現実を考えると、より多方面で、体系的な文化理解が必要である。特に、誤解や摩擦が生じやすい文化的事象を実践研究で取り上げる必要があると考える。周(2020)は国際理解教育においての日中異文化理解に関する先行研究と関連研究を考察した上で、日中両国民間の誤解・摩擦事例を多様な資料から収集し、事例から見えた文化的事象を分析し、事例を活用する可能性と意義を述べた。

本稿は日中における集団間異文化理解をめざしたカリキュラム・教材開発に向けて、先行の実践研究で取り扱われた日中の文化的事象と、現時点まで収集した事例から見た日中の文化事象を分析し、日中の異文化的事象をカテゴリー化することを研究目的にする。

2. 先行研究

釜田・姜(2014)は、国家を枠組みにした文化理解から、集団内の様々な差異(民族的マイノリティ)に注目して、価値多元化社会において、異なる価値観を持つ相手を「異己」として捉え、「異己」プロジェクトを立ち上げた。そして、永田・釜田(2016)は新たに共生を組み込んで、対立を前提として理解と共生を目指した教育実践を蓄積している。

呉等(2013)は、個人的な「異文化理解」を集団的に「異文化<間>理解」の次元に引き上げることを目指して、2010年から、日韓中越の大学における交流授業を行い、集団間の異文化理解が起こりやすい授業の方式や素材を検討し、映画、イラストによるストーリー、公的な場所での規範・ルールなどが授業の素材として有用であることを確認した。その後、山本・姜・呉は2013年から読者参加型共同研究の方法で、「日本、中国、韓国、何がどう違う」というテーマで三カ国の文化的差異に注目して研究を継承している。具体的なテーマとして、「友達関係で普通のこと、おかしいこと」、「生徒の褒め方」、「おもちゃの使い合い」、「困っている時にどうする」、「親友とは」との五つが挙げられる。

また、呉(2019)は日韓中の大学や高校で、作成した物語について少人数での直接対面式授業と多人数での集団間非対面式交流授業を組み合わせる方法など、多様な交流方法で授業を複数回実施した。対話的異文化理解教育実践を通して、実践参加者の対話的異文化理解の過程について理論的考察を行い、新たな文化理論を提案した。

3. 日中における異文化的事象のカテゴリー化

周(2020)は外国人労働者や留学生、国際結婚における異文化衝突や適応に関する書籍や論文から、日中国民の交流や接触によって生じた誤解・摩擦事例を収集し整理した。日中にお

ける集団間異文化理解をめざしたカリキュラム・教材開発に向けて、先行の実践研究で取り扱われた日中の文化的事象と、現時点まで収集した事例から見た日中の異文化事象を分析し、(1) 対人関係と人間関係のあり方、(2) 社会規範と生活習慣、(3) 言語文化と大きく三種類に分けてカテゴリー化した。

表(1) 文化的事象とカテゴリー

カテゴリー	対人関係・人間関係のあり方	社会規範と生活習慣	言語文化
文化的事象	面子；	公共交通のあり方	感謝と謝罪表現・文化
	関係；	食事習慣	婉曲表現
	人情と義理；	宴会でのお酒文化とビジネス	社交辞令，本音と建前
	金銭の貸借，立替；	お風呂文化・入浴のマナー	あいさつ文化；呼称語
	割り勘か奢り合い；	お土産文化	敬語，待遇表現
	物の所有意識；	ジャスチャー	断り表現と断り方
	お返し文化；	恥文化とタブー行為	褒め表現と褒め方
	親孝行；	時間概念	数字文化と縁起・吉凶
	プライベート；	空間概念	日中同形異義語
	近所付き合い方；	…	タブー表現・差別用語
	…		方言

(1) 対人関係・人間関係のあり方

日本の「ルール依存」とは違い、中国では「人間関係依存」の社会構造である。中国人の行動原理には「関係」は重要な役割を果たしている。アジアの社会で広く関係重視の傾向が見られるが、関係重視の仕方について日中間に違いがある。園田(2001)は日本との対比に見る中国的關係の特徴、あるいは現代の日本人が違和感を覚えやすい中国的な關係の性格を「関係によって生じる強い親密感」など四つを挙げた。先行研究で取り扱われた「お返しの文化」や「物の所有意識」はこの「関係」の視点から解釈してもよい。日本では「何かお土産をもらったからお気を遣って早いうちにお返りする」のが一般的ルールであり、礼儀正しいと思われるが、中国では「仲の良い友達なら家族と一緒にだ」「お返しをすることこそ自分を友達として見ていないからだ」と思われるため、人間関係をより疎外させてしまう。また、日本の子どもは学校用品に名前を記入して、自分の物と他人の物をはっきり分ける傾向が強いが、中国の子どもは「相手と自分の物を共有することは友達への友情の証で、二人は仲がいい証拠だ」と思っている。

(2) 社会規範と生活習慣

①公共交通のあり方について、先行研究では「車内での電話」をテーマに日中の学生に交流授業が行われたが、他にも「子どもに席を譲るべきか」「車内での化粧」「泣いている赤ちゃんのお母さんをしかるべきか」など日中間に差異があるため、交流授業のテーマとして扱っても良いと推測する。

②食事文化や習慣について、小坂(2017)では中国人のホストに招待されて、「お代わりどうぞ」と何回も言われ、ついに食べ過ぎちゃったというケースが言及された。中国では、周囲の人間に十分に食べさせてやってこそ、ホストとしての役割を果たしたことになる。一方で、ゲストは満腹になった顔で料理を食べ残すことによってホストに感謝の念を表明する。最近、都会の一部のインテリにはこうした風潮を忌避する傾向が見られるが、農村ではこうした慣習は依然として存在している。また、家庭内の食事方式に日中間の違いがある。中国では共食(料理を集めて取り箸

なし共同で食事をする)方式であるが、日本では料理を取り分けるのが一般的である。その他、割り勘か奢り合いについて、「日本の割り勘で友情を買えない」と孔(1995)は言ったように、日本の割り勘習慣は中国では人間関係をより疎外させてしまう。これらの食事文化の違いにより、日中国民が接触した時、誤解や摩擦が起こりうるので、教材で紹介する必要があると考える。

③お風呂文化について、普通は湯船につかる日本家庭の習慣と違い、中国は大陸気候であるのでシャワーだけでほとんど十分である。王(2005)が入浴のマナーの違いにより生じた中国人の失敗談を紹介したように、日中国民が接触した時、誤解や摩擦を避けるため、お風呂や温泉の入浴のマナーを教材で扱う必要があると考える。

④お土産・贈り物文化について、日中それぞれプレゼントとしてタブー視されるものがあるため、注意しないと相手が不愉快になる可能性が高い。また、受け取ったプレゼントをどういうタイミングで開けるのか、日中がそれぞれ違っているから、注意を払う必要がある。

⑤「ジェスチャー」について、日中におけるジェスチャーでも色々違っている。例えば、小坂(2017)は「こっち来て」と言うつもりで手招きしたら、相手が少し怒った顔をして去っていったとの事例を紹介した。中国人の誤解を招きやすい日本人の12種類のジェスチャーが人民網日本語版で掲載されている。

⑥恥文化とタブー行為について、久米・長谷川(2013)は、日本人留学生は中国の大学文化祭で、皆に喜んでもらうため、胸に赤いブラジャー、下腹部に紙コップを付けた格好で寸劇をしたが、中国人は大抗議デモを行ったという新聞記事について記述した。この事例のように日中の恥文化とそれぞれのタブー行為を理解しておかないと、大変なことになる可能性が高い。

日中における社会規範や生活習慣の違いが他にも存在している。特にこれらの違いにより誤解・摩擦が生じやすい文化事象への理解が国際理解教育において求められる。また、国家を枠組みにした相互理解に留まらず、同じ国でも年齢や地域によって異なる点は、国際理解教育を実践する時、留意しておく必要がある。

(3) 言語文化

日中における言語文化の違いを理由とする日中間のコミュニケーション摩擦事例は多い。日中の言語文化を言語学の視点から比較した先行研究が数多くある。以下は日中間の誤解・摩擦事例を検討しながら先行研究で言及された日中の言語文化的事象を述べていく。

①感謝と謝罪の在り方について、日中の比較研究は多い。例えば、王(2008)は中国社会では、謝罪の方は繰り返すことによって真意が伝わると考えるのが普通であると述べた。また、日本社会における「世間さま」や「周り」「関係者」のような曖昧な人々を念頭に置いた謝罪とは違い、中国社会の謝罪の厳しさは西洋人の感覚とずっと近いと王(2008)は主張している。山本(2004)は「謝罪文化の違い」を手がかりに日中の歴史問題を解決しようとして、コミュニケーションを成り立てるにはお互いにあるルールが共有されていることへの信頼が必要になるが、それが崩れた時、相手に対する怒りや憎しみさえ発生することがあるとした。

②「婉曲表現・コミュニケーションスタイル」について、藤巻(1996)はホールの提唱する「コンテクスト度」という概念を用いて、日本文化を「高コンテクスト文化」、中国語話者の属する文化圏を「低コンテクスト文化」と位置付け、中国語話者の日本語による誤解の原因を、文化的なノイズによるものと指摘して、「高コンテクスト文化に属する日本人は、言外のメッセージを相手が理解することを望む傾向にある。しかしながら、中国語話者は言語的に明示されたメッセージの内容(意味)をそのまま受け取ってしまう傾向にあるため、両者の間にメッセージの解釈に対するギャップが生じ、誤解の原因となる事例が少なくない。

③「社交辞令」について、「中国に来たら連絡してね」といった中国人にとって、本当に連絡が来たら嬉しくなるが、日本のほうがびっくりして困る場合が多い。実は社交辞令は日中ともにある

し、国家間の差異だけでなく、国内でも地域差もある。例え有名な京都の「ぶぶ漬けでもどうどす」が挙げられる。社交辞令は、日中の相違点と共通点だけでなく、それぞれの国内の多様性について理解することができる文化的事象だと考える。

④数字文化と縁起・吉凶については、中国人と日本人はそれぞれ奇数と偶数に対する考え方が異なっている。一般的には、中国人は偶数を吉として好む一方で、日本人は奇数を吉として好む。林(2013)は「両国語では、それぞれ数字を持って吉凶またはタブーを表す表現が多く存在するが、両国の歴史、哲学、宗教、政治、経済等の背景の違いにより、数字に含まれる文化的な意義には当然相違点がある」と述べた。両国のこうした数字における文化的事象の相違を理解することにより、相手の文化に接するときの衝突を避けることができると言える。

⑤日中同形語について、日本語と中国語ともに漢字を使用することで、日本語においても、中国語においても、表記が同じであるが意味が違うことばがある。例えば、「熟女」/“熟女”は2005年前後日本語から中国語に伝わったことばであるが、意味上、日中両言語とも「成熟した魅力をもつ女性」を指すが、日本語ではマイナス評価の語と共起することが多いので、ほめことばとしてのイメージが比較的薄いと思われるが、中国語では“熟女”のもつプラスの評価のイメージが強調されている。二宮(2014)では、「日本人のご主人と結婚して来日した王さんは、最愛の娘が幼稚園の発表会で「妖精」の役をもらったことで、腹立たしく思い、担任に抗議した…」という事例が紹介された。この事例は日中における「妖精」の意味とイメージの違いに生じたものである。このように、日本語と中国語の表記的な概念から生じる思い込みや誤解が招くから、関連の文化的事象を内容として教材で取り扱うことがとても有意義である。

4. 今後の課題

今後は多様な資料から収集した事例及び日中文化的事象により作成した仮想事例に対する調査によって適合な事例を選別し、学習内容としての文化事象とそれに対応する教材例集の編成を行い、いずれかの教育現場で実用化を目指したい。

主な引用・参考文献

- (1) 大津和子『日中韓3カ国の協働による相互理解のための国際理解教育カリキュラム・教材の開発』科研費報告書, 2012
- (2) 姜英敏・王燕玲・草野友子「お返しをめぐる日中共同授業－価値基準の異なる他者理解の試み－」日本国際理解教育学会編『国際理解教育』15号, pp.76-86, 2009
- (3) 釜田聡・姜英敏「日本・中国『異己』共同授業プロジェクトの概要」国際理解教育20号, pp.96-100, 2014
- (4) 永田佳之・釜田聡「日中共同『異己』理解・共生授業プロジェクトの概要」日本国際理解教育学会編『国際理解教育』22号, pp.100-105, 2016
- (5) 呉宣児『東アジアの大学を結ぶ対話共同体への参与過程として生成される集団間異文化理解』科研費報告書, 2013
- (6) 呉宣児『対話的異文化理解の教育方法をめぐる実践及び理論的研究』科研報告書, 2019
- (7) 山本登志哉・姜英敏・呉宣児「読者参加型共同研究」
<https://www.blog.crn.or.jp/lab/eastasia-project.html> (2020年3月23日閲覧)
- (8) 周勝男「目に見えない文化」を重視した日中異文化理科のための教材研究－異文化誤解・摩擦事例を活用して－」日本国際理解教育学会編『国際理解教育』26号, pp.71-78, 2020
- (9) 園田茂人『中国人の心理と行動』2001
- (10) 孔健『日本人の発想 中国人の発想』, 1994
- (11) 王敏『日本と中国:相互誤解の構造』中央公論新社, 2008